

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
Y I C看護福祉 専門学校	平成21年12月25日	伊藤 悦子	〒747-0802 山口県防府市中央町1番8号 (電話)0835-26-1122			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人Y I C学院	平成9年1月28日	井本 浩二	〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町2番24号 (電話)083-976-8111			
目 的	その人らしい生活を支えるために、介護に必要な教養や倫理的態度を身につけさせるとともに、人の心や体の仕組みについて教授し、他職種との協働や適切な介護の提供ができる介護福祉専門職を育成する。					
分 野	課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士 の付与
福 祉	教育・社会福 祉専門課程	介護福祉学科	2年 (昼)	2021 単位数	文部科学省告示平成 22年11月29日 告示153号	なし
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1,360 時間	205時間 (又は単位)	単位数 (又は単位)	456時間 (又は単位)	単位数 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数		兼任教員数	総教員数	
80人	38人	6人		9人	15人	
学期制度	■1学期： ■2学期：前・後期 ■3学期：			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 100点満点 紙テスト・実技・実習	
長期休み	■夏 季：あり (2週間) ■冬 季：あり (2週間) ■学 年 末：あり (3週間)			卒業・進級条件	進級の条件 ・学費の完納 ・科目の3分の2以上出席、ただし 実習は5分の4 卒業の条件 ・欠席日数が出席すべき日数の3分 の1を超えていないこと ・全科目の単位を修得し、全課程の 修了が認定されていること	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 1～2か月に1回電話によるやりとり			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動 (有・無)	

就職等の状況	■主な就職先、業界 福祉施設 ■就職率 100% ※1 ■卒業者に占める就職者の割合 100% ※2 (平成28年度卒業者に関する平成29年3月1日時点の情報)	主な資格・検定	介護福祉士
中途退学の現状	■中途退学者 3 名 ■中退率 6.5 % 平成28年 4月 1日 在学者 46 名 (平成28年 4月入学者を含む) 平成29年 3月31日 在学者 43 名 (平成29年 3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止のための取組 ・学力不足への対応：個別指導の実施により学習習慣を身に着けさせる。		
ホームページ	URL: http://www.yic.ac.jp/nw/		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いたものは含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

保護者、卒業生はもとより、介護福祉教育に関連する実習施設、介護福祉士会、県の主管課などの学校関係者などを学校自らが専任し、編成した教育課程編成委員会で各方面からの意見を聴取し、編成作業に反映する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
吉村 喜代子	山口県看護協会
河本 由美	山口県介護福祉士会
山本 亜沙美	Y I C看護福祉専門学校同窓会
楫野 由美子	医療法人和同会 片倉病院
山根 昭昶	特別養護老人ホーム やすらぎ苑
落合 教子	Y I C看護福祉専門学校
伊藤 悦子	Y I C看護福祉専門学校
野崎 美紀	Y I C看護福祉専門学校
日當 泰浩	Y I C看護福祉専門学校
吉武 理恵	Y I C看護福祉専門学校
有本 徹哉	Y I C看護福祉専門学校
田中 恵美子	Y I C看護福祉専門学校
河村 晶子	Y I C看護福祉専門学校
福本 智子	Y I C看護福祉専門学校

(開催日時)

第1回 平成28年11月15日 14:00~15:00

第2回 平成29年 2月21日 15:10~16:10

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

教育の現場と臨地との情報交換を密にし、学生の実習目標に到達させるため教育内容や指導方法について相互に意見交換し質の高い教育を行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
介護実習 I-1	介護福祉利用者との人間的触れ合いを通じて、介護福祉利用者の自助におけるニーズと介護機能並びに施設・事業等施設職員の一般的な役割について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通所介護事業所 ・ グループホーム ・ 訪問介護事業所
介護実習 I-2	介護福祉利用者との人間的触れ合いを通じて、介護福祉利用者の自助におけるニーズと介護機能並びに施設・事業等施設職員の一般的な役割について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別養護老人ホーム ・ 介護老人保健施設 ・ 障害者支援施設 ・ 福祉型障害児入所施設

介護実習Ⅱ—1	介護福祉利用者の個別性に応じた介護の在り方について理解を深める。また、施設運営のプログラムに参加し処遇全般について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別養護老人ホーム ・ 介護老人保健施設 ・ 障害者支援施設
介護実習Ⅱ—2	介護福祉利用者の個別性に応じた介護の在り方について理解を深める。また、施設運営のプログラムに参加し処遇全般について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別養護老人ホーム ・ 介護老人保健施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

学校の理念や教育方針等に沿って、教員の指導力や各分野における最新の知識等を習得するため、学校評価等の結果を踏まえた研修を実施する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
吉村 喜代子	山口県看護協会
河本 由美	日本介護福祉士会
吉松 茂	野田学園高等学校
楫野 由美子	医療法人和同会片倉病院
山根 昭昶	特別養護老人ホーム やすらぎ苑
末富 庸子	Y I C看護福祉専門学校 保護者
落合 教子	Y I C看護福祉専門学校
伊藤 悦子	Y I C看護福祉専門学校
野崎 美紀	Y I C看護福祉専門学校
日當 泰浩	Y I C看護福祉専門学校
吉武 理恵	Y I C看護福祉専門学校
有本 徹哉	Y I C看護福祉専門学校

(開催日時)

第1回 平成28年 5月25日 10:30~11:30

第2回 平成29年 2月21日 14:00~15:00

(学校関係者評価結果の公表方法)

[URL:http://www.yic.ac.jp/nw/](http://www.yic.ac.jp/nw/)

5. 情報提供

(情報提供の方法)

[URL:http://www.yic.ac.jp/nw/](http://www.yic.ac.jp/nw/)

授 業 科 目 等 の 概 要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成29年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○	○		人間の理解A	人間の多面的理解と尊厳の保持、自立・自律した生活を支える必要性について理解する。	1・前	30	2	○		
○	○		人間の理解B	介護実践に必要な人間の理解や、他者への情報伝達に必要な、基礎的なコミュニケーションの能力を養う	1・前後	30	2	○		
○	○		社会の制度の理解A	人間の生活、社会のかかわりや自助から公助に至る過程について理解する。我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史や変遷、仕組みについて理解する	1・前	30	2	○		
○	○		社会の制度の理解B	介護保険制度と障害者自立支援制度について、基礎的知識を習得する。介護実践に必要な、個人情報保護や成年後見人制度などの基礎的知識を習得する	2・前	30	2	○		
○	○		生活活動論 (レクリエーション)	介護福祉サービスにおけるレクリエーションの意義について理解させる。レクリエーションの援助の実際と役割、活動の実際について学ぶ	1・後	30	2	○		
○	○		生活活動論 (アクティビティ・サービス)	アクティビティワーカーに求められる専門性、対人援助職に求められる資質について様々な角度から考え、援助体系としての他職種との連携や利用者の理解などについて学ぶ	2・前	30	2	○		
○	○		国語表現	言葉の大切さを認識し、正しく遣うことができるようにする。実習日誌などの記載時に備え、書き言葉を覚え、実際に書くことができるようになる	1・前	30	2	○		
○	○		情報処理演習	福祉現場でも求められるパソコンの基礎的知識の習得に努め、Word, Excel を使いこなすことを目指す	2・前	30	2	○		

○	○		介護の基本 1-1	「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解し、「介護を必要とする人」を、生活の観点からとらえ、安全やチームケア等について理解する。	1・前	60	4	○		
○	○		介護の基本 1-2	「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解し、「介護を必要とする人」を、生活の観点からとらえ、安全やチームケア等について理解する。	1・後	60	4	○		
○	○		介護の基本 II-1	人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるような、関係職種との連携の在り方などを理解する。	2・前後	30	2	○		
○	○		介護の基本 II-2	人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるような、関係職種との連携の在り方などを理解する。	2・前後	30	2	○		
○	○		コミュニケーション技術	援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者やその家族、また多職種協働におけるコミュニケーション技術を身に付ける	1・前 2・後	60	4	○		
○	○		生活支援技術 I-1	その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで、生活の楽しさや生活の支障の解決についてもともに分かち合うことができる	1・前	30	2	○	○	
○	○		生活支援技術 I-2	個人に合わせた食生活をする事で利用者自身が食生活の楽しさや健康であることの重要性を感じ、その人らしく生きるための支援ができる技術や知識を深める。	1・2・前後	60	4	○	○	
○	○		生活支援技術 II	どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を深める	1・2・前後	180	12	○	○	

○	○		生活支援技術Ⅲ	どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を深める	1・後・2・前	60	4	○	○	
○	○		介護過程A	他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の展開・介護計画の立案・適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。	1・後	60	4	○	○	
○	○		介護過程B	他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の展開・介護計画の立案・適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。	1・2・後・前	60	4	○	○	
○	○		介護過程C	実習で担当した利用者の方のケース記録をもとにグループディスカッションを行い、現場で必要な介護過程が展開できるように学んでいく	2・後	30	2	○	○	
○	○		介護総合演習A	介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中は実践力が身につくことができるようにし、実習後は振り返りを行うことで効果的な実習を行えるようにする。	1・前	30	2	○	○	
○	○		介護総合演習B	介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中は実践力が身につくことができるようにし、実習後は振り返りを行うことで効果的な実習を行えるようにする。	1・後	30	2	○	○	
○	○		介護総合演習C	介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中は実践力が身につくことができるようにし、実習後は振り返りを行うことで効果的な実習を行えるようにする。	2・前	30	2	○	○	
○	○		介護総合演習D	介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中は実践力が身につくことができるようにし、実習後は振り返りを行うことで効果的な実習を行えるようにする。	2・後	30	2	○	○	
○	○		介護実習Ⅰ-1	介護福祉利用者との人間的触れ合いを通じて、介護福祉利用者の自助におけるニーズと介護機能並びに施設・事業等施設職員の一般的な役割について理解する	1・前	72	2			○

○	○	介護実習Ⅰ－ 2	介護福祉利用者との人間的触れ合いを通じて、介護福祉利用者の自助におけるニーズと介護機能並びに施設・事業等施設職員の一般的な役割について理解する	1・ 後	96	3			○
○	○	介護実習Ⅱ－ 1	介護福祉利用者の個別性に応じた介護の在り方について理解を深める。また、施設運営のプログラムに参加し処遇全般について理解する	2・ 前	144	4			○
○	○	介護実習Ⅱ－ 2	介護福祉利用者の個別性に応じた介護の在り方について理解を深める。また、施設運営のプログラムに参加し処遇全般について理解する	2・ 前後	144	4			○
○	○	発達と老化の 理解	老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基本的知識を習得する	1 前後	60	4	○		
○	○	認知症の理解	認知症に関する基礎的技術を習得し、認知症のある人の特性を理解し、本人や家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点の習得する。	1・ 後・ 2・ 前	60	4	○		
○	○	障害の理解	介護実践に必要な、個人情報保護や成年後見人制度などの基礎的知識を理解する	1・ 前後	60	4	○		
○	○	こころとからだのしくみA	心理的側面への配慮について理解する	1・ 後	30	2	○		
○	○	こころとからだのしくみB	介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する	1・ 後	30	2	○		
○	○	こころとからだのしくみC	利用者の日常生活での各場面における一連のプロセスを捉え、その根拠を考えることで支援の仕方を明確につかんでいく	2・前	30	2	○		
○	○	こころとからだのしくみD	生物学的な死からそれぞれの死生観を捉え、死に対するこころの理解を考える。専門職として医療職と介護の連携を学ぶ	2・ 前	30	2	○		
○	○	卒業研究	実習における担当ケースを事例研究することで、問題点を科学的に分析し、利用者の自立や向上、発達に目を向けよりよい援助の方法を見つけ出す	2・ 前後	60	4	○		

○	○		マネジメント論	歴史の浅い介護現場の中でリーダー的存在として今後活躍できるように医療福祉分野におけるマネジメントを学ぶ	2・後	30	2	○		
○	○		手話	手話を必要とする聴覚障害者について理解し、支援の在り方について学ぶ。日常会話で必要な手話を習得する	1・前	20	1	○		
○	○		ビジネスマナー	社会人としての基本的な接遇マナーを身に付ける	1・前	15		○		
○	○		就職実務	進路希望先を明確にするともに、就職活動の流れに沿って対策を行い、準備を整えさせる。また、採用内定後の心得について指導する	1・後 2・前	15		○		
○	○		医療的ケア	医療職との連携のもとで、医療的ケア（介護職員による各痰の吸引等の実施）が安全・適切に実施できるよう必要な知識・技術の習得を目指す	2・後	60	4	○	○	
合計						87科目		2021単位時間(114単位)		